

歯科外来システム再編成に至るまで

歯科外来看護師長 中 俣 文 子



平成18年4月に歯科外来システムの再編がスタートしてから、早いもので半年が過ぎようとしています。

始まりは、平成16年の病院計画においてICUの増床計画に伴う看護師の配置の検討がなされました。歯科外来は平成16年の業務量調査の結果より、看護職でなくてもよい業務内容の多さから、他職種への転換計画が出されていたこともあり、平成17年10月に1名、平成18年4月に6名の看護師の削減が言い渡されました。その結果、医科への配置換えが5名、退職者2名の7名が減になり総数18名から11名になりました。

しかし、我々は人事の結果が出る前から、歯科外来看護師全員が一丸となって現状の問題や効率のよい人員配置を念頭に置き、歯科外来システム再編に向けプロジェクトを立ち上げ、取り組まなければなりません。

取り組みについて

1. 器具の中央化について

- ・各科で洗浄メンテナンスしている器械器具類を中央化に向けて内容の統一を行う。
- ・サプライセンターに移行できるように調整し開始できるようにする。
- ・歯科医師、歯科衛生士、看護師の中央化ワーキンググループを立ち上げ、意思統一を図る。作業課題が山積みで綿密な計画、詳細な検討を行っても二転三転してしまい、取り組みに費やす時間が多く誰もが必死の思いで頑張りました。さらに限られた予算では、再生利用を余儀なくされました。なかでも点滴台の再利用は大

変で、移動や洗浄、整備に思ったより時間がかかりました。ケース類の見積もりも予算に限界があり業者との交渉に当たってくれた看護師長は非常に大変でした。

また、年度末の忙しい日程の中、歯科手術室の跡地で点滴台や引出しの整備等に、夜遅くまで時間を費やしました。この時は、物流センターのスタッフの皆様にも応援していただきとても助かりました。

今現在、だいぶ軌道に乗ってきてはいますが、とにかく診療に支障がないように配慮していくことが必要条件であります。

2. 外注職員の導入について

- ・用度係と看護部の打ち合わせにより、清掃業務とサプライ6時間パートの導入の承諾を得ることができ、それに伴いマニュアルを作成し、受け入れを準備しました。どちらもスムーズに導入でき現在に至ります。

3. 看護業務を整備し標準化するために

- ・現状の歯科外来の問題について検討し、看護師ができる看護業務を上げ、具体的に計画立案していきました。看護師スタッフの意識の違いやトレーニングに多少の違いはありますが、外来スクリーニングに関しては、ほぼ全科で実践しています。

4. スタッフのローテーションについて

- ・各科の看護業務が統一されることで担当科のみならず歯科外来全体でのスタッフのローテーションが可能となることを目的に取り組みました。
- ・平成17年11月～18年3月に、各科の1週間ごとの研修をまず副師長から開始し、スタッフ3名については、人事異動発表後に開始しま

した。

- ・研修期間を終えて、いよいよ4月17日から開始の予定でしたが、器具類の中央化が軌道に乗らず、5月の連休明けから開始となりました。
- ・1週間ごとに変わることに對して、看護師自身はもちろんのこと歯科医師も戸惑いやストレスがあったと思われます。しかし、少ない人数で業務をこなすにはやむをえない方法であり、もうしばらく時間を見ていただきたいと思います。
- ・毎月定例の外来相談会では全員の意見を聞いて、より良い方向に導いていきたいと思っています。

5. 歯科衛生士との協力体制

- ・平成18年4月より看護師の人数が減り、歯科衛生士と共に協力し合って外来運営を行う必要があるため、意見交換や業務について話し合いをすることにしました。

第1回の話し合いを2月に行い6月まで5回話し合いをしましたが外来の新体制も軌道に乗り大きな問題もないため、次回は4ヶ月後

に開催することにしました。ただし早急に話し合いが必要な場合は、臨時で開催することになりました。

6. 今後の課題

大学病院における患者様の特殊性としては、全身疾患を有している患者様が多く、他院での治療が困難なために受診するということが多いのが現状です。そのため不安をもちながら治療に望むことが多いため、心身ともに患者様を理解し看護の必要性のある患者様には全人的に把握し看護を展開していかなければなりません。

また、各診療科の特殊性を理解したうえで、看護業務・診療補助業務を行っていく必要があります。しかし何よりも大切なことは、患者様が安全に安心して治療が受けられ、「大学病院に受診してよかった」と言っていただけることだと思います。

それには、医療従事者がお互いに連携し、患者様中心の良質で安全な歯科治療に当たることではないでしょうか。私達歯科外来看護師は、患者様の口腔内を理解した上で、診療補助を行い、必要とする患者様の情報を的確にキャッチし、提供できるように日々、頑張っていきたいと思っています。

